

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901188		
法人名	有限会社 エイ・シー・エス		
事業所名	グループホーム 花みず木		
所在地	福岡県福岡市博多区西月隈3-3-54		
自己評価作成日	平成29年3月20日	評価結果確定日	平成29年6月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成29年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

季節の野菜や食材を使った食事の提供や各季節ごとに掲示物などを作成。施設内でも季節感を感じてもらえるように努めている。
また、特に力を入れている事は、各フロア必ず月に一度全員での外出レクを企画しており、入居者様に喜んで頂けるレク企画の作成・実施に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム花みず木」は都市高速の月隈ランプよりほど近い、西月隈地区にある2ユニット型事業所である。敷地内には系列の入居施設が2か所あり、内1か所は昨年開設されたばかりの新しい施設で、花みず木とは増設の形で棟続きで運営される。新規施設のオープンをきっかけに改めて当事業所のPRIにもつながり、新たな入居希望者も増えて、現在当事業所も満床で運営されている。系列施設とも連携をとることで、健康な方から介護が必要な方までワンストップでお世話の出来る体制が整った。サービスでも、どうしたら入居者が喜ぶかを考えて日々実践し、必ず毎月郊外レクを企画し、外食や花見など様々な場所に赴き、認知の進んだ方にも刺激になり活発化につながっている。日頃も日常生活で出来る事はしてもらい、時には一緒に作る食事なども楽しまれ、毎月の生け花や習字などのレクリエーションにも取り組んでいる。地域での運営も15年目を迎え、新たに地域との関係が強固にされた働きが大いに期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カウンターや事務所などに理念を掲示。いつでも確認出来るようになっている。毎年基本方針が作成され、職員の反省・目標作成を行い、理念とともに実施に努めている。	開設当初からある法人理念を使っており、社名のACSがそのまま理念の頭文字になっている。タイムカードの上に掲示し、必ず出社時に目を通すようにもしている。年初めの会議で施設長が定めた基本方針と、個別の目標があり振り返りも行っている。入社時にも施設長から理念に関しての話もあり、覚えやすいこともあり職員にも浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内清掃への参加で顔を覚えて頂けるよう努めている。 町内総会へも毎年参加させて頂いている。	町内会には以前から加入しており、職員と入居者が一緒になって、毎月の地域清掃に出れるときは毎回参加している。以前は秋祭りに地域の方もお招きしていたが、敷地内に新施設を作った関係で、今は年末の餅つきの方に、招待している。校区の夏祭りにも毎年参加している。積極的に散歩や地域に出向いており、親近感を覚えた地域の方からボランティアの申し出があった。区内のグループホーム同士の協力関係も昨年から取り組んでいる。	近隣地区の高齢化が進み、町内会行事なども少なくなってきたはいるが、時間をかけ、他事業所との協力関係も築きながら地域との関わりを深めていくことにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議を通して、介護施設の説明や認知症に対する支援の在り方などを話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。 今年度は、介護職の試食会や外部評価の結果報告会、レク活動等の報告などをテーマに開催させて頂いた。	民生委員、町内会長、地域包括が参加しており、家族参加も以前はあったが、今はない。行事予定や行事報告のほか、地域の方からの情報も頂いている。議事内容はカウンターで閲覧公開し、内容は毎月のおたよりの中で報告もしている。福岡市にも案内しており、年一回程度は参加もされている。	数年前から家族への案内もされていないが、案内や呼びかけなども積極的に行うことで、会議内容の変化や発展がなされることにも期待したい。隣接の施設の開設をきっかけに新たな関係作りが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域推進課・包括センターへお声掛けさせて頂いている。	運営推進会議の案内は毎回行い、年1回程度は参加されている。最近では新規入居者の件で、地域包括や市にも相談して対応を検討された。保護の方の受け入れもあり、何かあった際の相談は逐次こまめにしている。入居に関しての照会を受けることもある。	運営推進会議の案内と一緒に議事録を送付することで、事業所の状況報告や空き情報なども伝える機会に役立ててはどうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外研修などで学んだ事を共有し、また、利用者様の性格・その日の状況などを把握、見守りにて対応するようにしている。	毎年内部研修は実施して、外部研修の伝達も行っている。正面玄関も日中は開放しており、内部の移動も自由にできる。玄関にセンサーを設置しており、出入りを把握できるようにしているが、最近離脱事故があった。今は個別の見守りを強化し、対処している。不穏な際は見守りや付き添いで出来るだけ対応しており、徘徊ネットワークの登録と監視カメラの設定もされている。異食行為のある方の拘束着使用があったが、医師、家族との同意、見直しの上、今は解消している。	

H29.3自己・外部評価表(花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて関連法や現状について学ぶ機会を設けた。 常に虐待等起こらないように気を配って業務に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外研修で学んだ事をミーティング等で報告してもらい、スタッフ間で共有している。必要に応じ、活用できるよう努めている。	昨年からの外部の後見人の利用を始められた方がおり、関係者と協力の上、現在もやり取りをしている。内部研修も年間計画の中で行い、職員も一般的な制度の理解をしている。必要な際は各ユニットの管理者が担当になり区や外部の関係者と連携して対応する体制である。	外部研修の参加や、必要時に備えてパンフレットや資料の準備がなされることにも期待したい、
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明を十分に行っている。契約書は、締結前に一度持って帰って頂き内容を確認してもらおうようお願いし、了解を得て確認書類へ署名して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情対応体制や意見箱についての説明をしているが、ほとんど面会時や電話で話すときなど直接話すときに要望・苦情が出てくる事が多い。 聞き逃さないように努め、代表者、ケアマネ、スタッフ、一同対応に努めている。	家族からの意見は面会時に聞くことが多い。居室に通して個別に聞くこともある。半数程度は月一回以上面会があり、来訪の際は口頭で伝え、来られない方にも電話での定期連絡や、毎月の個別の写真入りのお便りでも報告をしている。家族がボランティアで来てくれることもあり、クリスマス会にも家族を招待している。	満足度調査やアンケートなどによって日頃あがってこない意見を聞き取る仕組みを作ってもよいのではないだろうか。家族会の再開も検討しており、実現に期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の会話などから出た意見を業務に反映させている。 また、ミーティングの為に事前にアンケートを取り話し合いの場を設けている。 年に2回施設長との面談があり意見を聞く機会を設けている。	毎月ユニット単位でのミーティングがあり、基本的には全職員が参加している。入居者の状況報告、意見交換のほか、毎月の取り組み、レクについてなど話し合われる。最近では記録の取り方に他関して、職員の提案があり、すぐに取り組みされた。年2回の面談では職員の評価のほか、個別相談の機会にもされる。	1、2Fのユニットそれぞれ独自でのサービスがなされており、情報共有の仕組みがない。合同のレクや、事業所としての会議など職員レベルでの交流や情報共有がなされることで、一体感のある運営を目指してはどうだろうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	十分に配慮している。	全体で3割程度の男性職員がおり、各年代でバランスよく20～60歳代までの幅の職員が在籍している。外部研修の案内があり、希望を聞いて参加も出来る。希望休暇とそれ以外にも職員間で融通しあってシフト調整もされているが、休憩時間はユニットによりとれたりとなかったりがある。職員の特技や要望を活かした係や役割分担などで能力発揮の機会も持っている。	時には懇親会や事業所全体の交流で横のつながりをもつ機会ももってはどうだろうか。また、就業規則や雇用条件明示などによって、職員が長く安心して働けるための制度を整備していくことで、より安定的な運営がなされていくことにも期待したい。

H29.3自己・外部評価表(花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加や内部での話し合いが実施出来ておらず、不十分である。	昨年は外部研修の機会がとれず、人権に関する学習機会は少なかった。今年は認知症実践者研修を受講している職員がおり、人権関連の講義も受けている。	外部研修で学んだ人権関連の講義に関して、内部での資料回覧や伝達がなされることが期待される。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ、外部研修への参加を促している。 日常でもその場での指導に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	博多区グループホームネットワークへの参加など外部との交流を利用して外部との交流を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の中から細かい事を聞き逃さないようにして、情報収集をしスタッフ間で共有して関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入所時、また、その後の来所された時などに傾聴した情報を共有し関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを含めて、現状の必要性と見極めながら努力している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事(掃除・食事準備等)を手伝って頂きながら共に生活していきながらで教え教わりながら、良い関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族共に会話を大切にして会話を大切にして信頼関係が深まるように努めている。		

H29.3自己・外部評価表(花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、家族・親戚・友人など関係者に協力して頂いて支援をしている。	家族の面会もあるが、入居前からの付き合いで、宗教関係の集まりに参加したり、事業所が間にたって電話の取次ぎをすることも。家族に連れ出してもらってなじみの美容室に継続して通う方もおり、ドライブの際などに自宅近郊に立ち寄ることもある。家族の協力の元、一時帰宅や自宅外泊、結婚式の参列などする方もいた。関係が疎遠になりそうな方も事業所が関わって関係継続に働きかけている。退所者との交流が続くこともあった。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で関係を構築しており、それに職員も加わって間を取り持ったりしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお見舞いへ行くなど、関係を大切にしている。 また、病院などよりの連絡や相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや生活歴などを把握して状況に合わせて本人の思いや意向に寄り添えるよう支援している。	入居時のアセスメントの計画作成担当者が行い、それ以降は現場の担当者に引き継いでいく。初回は関係機関からの情報もいただき、医師からも話を聞いている。意思疎通の難しい方は日頃の表情や状態から判断して、以降の把握に努める。数年前に一度アセスメント様式の見直しを行い、詳細がつかめるようになった。	基本情報の見直しがしばらくされていないので、年に1回程度は見直し、追記や情報の刷新がなされることが望まれる。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居後共に家族や各サービス担当者より情報収集を実施し把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録などをもとに職員間で話し合うなどして個々の現状を把握するよに努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の事を第一に、介護記録やスタッフの気づき、本人、家族の希望などもふまえて、担当者会議などで検討して計画作成をしている。	ユニットによって若干やり方は異なるが、プラン作成は担当者もしくはケアマネが行い、更新時には家族ともやりとりして要望を聞き取っている。基本的には担当者が居室整理、家族連絡、モニタリングなどを担う。見直しの際は全職員からアンケートやカンファレンスなどで意見を聞き取り、毎日のプラン実施チェックと、記録時の参照によって全職員がプラン内容を把握している。担当者会議でも医師や訪問マッサージなどから意見を照会している。	担当者会議録の中に医師や専門職の意見記録を残しているが、実際の出席と照会がわかるような記録がとられることが望まれる。

H29.3自己・外部評価表(花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画をもとに、日々の記録によりケアの実施を検討して、計画の見直し・修正を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族からの要望に対し、柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	会議や行事に参加して頂いて、会議協力を得ている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療で24時間連絡できる体制が出来ている。何かあれば相談して適切な看護を受けられるように支援をしている。	入居時に、提携医による定期受診をしたい旨を説明し、納得してもらったうえで月2回の往診を実施している。他科受診などは事業所から支援したり、家族によって通院介助してもらうこともある。兼任と隣接事業所に看護職員も在籍しており、必要時にはすぐに連携をとっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間連絡できる体制が出来ている。何かあれば、相談して適切な看護を受けられるように支援している。また、スタッフに看護師がおり、相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を設置し連携している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族、主治医と協議しながら、当事務所の方針を理解して頂き、支援に取り組んでいる。	看取りを行わない旨を方針として定め、契約時に説明し了承を頂いている。重度化の際は、家族との話し合いの上、医師の指示の下で、病院への紹介などを行っている。以前はターミナルケアに関しての外部研修の参加もしていた。提携医は夜間救急や24時間の電話連絡、診療にも来ていただける。	

H29.3自己・外部評価表(花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置について、社内研修を行った。訪問診療の医師や看護師に指導を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災避難訓練を実施している。また、災害訓練の実施や非常食の備蓄なども行っている。	隣接施設とは別だが、昨年から併設された入居施設とは合同での訓練を行う。基本夜間想定で、うち1回は消防署にも立ち会ってもらい、昨年には指導もしてもらえた。水や食料品、カセットコンロなどの備蓄物も確保している。昨年から消火訓練に重きをおいて、訓練内容も改めた。併設施設ともマニュアルを統合し取り組みの改善に取り組んでいる。	地域との協力体制の働きかけも始めており、訓練の案内や参加につなげていくことも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの生活歴や性格を把握して、親しみを込めつつも、尊重した声掛けを行っている。また、個人情報保護について、研修会を実施。スタッフ間で共有している。	抑制、強制しないような言葉かけには気を付けており、気づいた時にはその場で管理者から注意するようにしている。入居者の状況に合わせた言葉かけも医師や家族の上での働きかけにすることもあ。写真など肖像の利用に関しても目的ごとに説明し書面での同意を得ている。居室も基本的には締めてプライバシーを確保している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で本人の希望などを伺い、自分で物事を決められるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るかぎり、個々のペースで生活できるように支援に努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人個人の希望に添えるようなおしゃれが出来るように希望を把握して支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人・家族等からの情報などを参考に個々人に合った料理を職員と一緒に召し上がって頂いている。また、食事の準備から片づけまで一緒に手伝って頂いている。	1, 2Fでメニューは別で、その日の担当職員が入居者に聞くなどしながら調理しており、買い物もいける人には一緒に行ってもらい、歩いていくこともある。職員も同じものを一緒に食べながら感想などを聞いて反映もさせている。調理の手伝いや、配下膳など出来る事はしてもらい、皆で調理レクとして行事食などすることもある。個別外食や外出レクで皆で行くこともある。	

H29.3自己・外部評価表(花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の状態や能力に応じた対応をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアを実施している。 夜間は、義歯をお預かりして消毒を実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導・夜間帯のみのリハパンの使用やポータブルトイレの使用など、その人に合わせた排泄支援に努めている。	1, 2Fでやり方も異なり、必要な方にはバイタルチェックと一緒に排泄チェックを行うこともある。入居者の状態の悪化はあるが、現状の維持に努め、職員の提案により改善にも取り組んでいる。各入居者のトイレ誘導の時間は口頭で把握し、状況も随時申し送っている。便秘の方に対しては期間を記録することで抜けのないような退職に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分摂取量の管理、運動などで予防や改善に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に当日の体調などを考慮して、入浴を楽しんで頂けるように支援している。	1, 2Fの造りは共通で、家庭用のユニットバスである。基本的には週2~3回、午前から夕方にかけて入ってもらい、二人介助での対応は時間を決めていく。拒まれる方には声掛けを変えたり、時間をかえたりして対応し、少なくとも2回は入ってもらい、難しい際は清拭などでも保清している。皮膚観察など健康管理の場としても役立てている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜、良眠して頂けるように音や明かりなどに気を配っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師の説明で全員理解している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	3B体操、習字教室などを実施。日常でも裁縫が好きな方、得意な方をお願いするなど得意な事などを活かした役割を分担している。		

H29.3自己・外部評価表(花みず木)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設では、買い物同行や近所の散歩など実施している。外出レクなどでは御家族やご親戚の力を借りて外出を楽しんで頂いている。	各ユニットごとに独自で行う、外出レクには力を入れており、毎月必ずドライブして市内各所や県内の円ぼちにも外出や外食をしている。個別の外出もまめに行い、近隣の散歩や買い物など、車いすの方も同じように支援している。リクライニング車いすの方も介護タクシーの利用で外出を企画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は、保管庫預かりとしているが、本人の希望により使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の希望により、対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のわかるような、花や壁画を変えて掲示・展示している。	各ユニット共通のフローリング調のビニール床で、ホールには以前小上がりの和室スペースもあったが、今は変更してフラットな洋間にしている。毎月の飾りつけを変えており、季節感のあるものをレクで考え、作成している。キッチンが独立しているが、ホールに隣接しており料理の様子も望める。ピアノも置かれており、家族のボランティア演奏が開かれることもある。各所に行事の写真なども飾られ、華やかにされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の時間を過ごせるように外にベンチを置いたりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家電などを持ち込んで頂き、居心地のよい居室作りに取り組んでいる。	6.5畳ほどの広さで、クローゼットがあり、希望があれば畳を敷いて和室にすることも可能で、布団で休むこともできる。ベッドは基本的には持ち込みだが、介護ベッドの空きがある際は提供もできる。ソファやテレビなどのほか、使い慣れた棚を持ち込む方もいる。レクで作った生け花を飾ったり、それぞれの部屋作りがなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の能力を生かした身の周りの事が出来るように安全に配慮した自立支援をしている。		